

事例

地域の食文化の継承（第36回国民文化祭・わかやま 2021）

文化庁では、都道府県等と共催で、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典として、「国民文化祭」を昭和61（1986）年から毎年開催しています。

令和3（2021）年10月30日から11月21日までの23日間にわたり開催された「第36回国民文化祭・わかやま 2021」では、和歌山の食文化と芸能が一堂に会するイベント「わかやま食と芸能の祭典」や、湯浅町の特産である醤油をメインとし、食文化としての醤油醸造の魅力を発信するイベント「ゆあさ醤油祭り」を開催しました。

○わかやま食と芸能の祭典（11月13日・14日 和歌山ビッグホエール（和歌山県和歌山市））

和歌山の特産品や郷土料理を味わうことができる食のイベントや、伝統芸能・パフォーマンスを間近で堪能できるステージイベントなど、来場者が気軽に文化に触れることができるイベントを実施しました。

また、歴史と自然が生んだ和歌山の食文化及び食の魅力を発信するトークイベントを実施したほか、和歌山の食材を活用し、一流料理人が作成した特別弁当を数量限定で販売しました。



トークイベントの様子

○ゆあさ醤油祭り（10月30日・31日 和歌山県湯浅町）

羽衣国際大学の協力の下、「湯浅の特産品を使ったおうちごはん」をテーマに、湯浅の醤油、金山寺味噌、湯浅湾でとれた新鮮な魚などを使い、料理教室を開催しました。地元の小学生とその保護者が1組となり、湯浅の醤油を調味料として生かし、簡単においしく料理をすることで、地域の食文化を再認識する機会となりました。



和歌山県湯浅町の特産品

また、同イベントにおいて、醤油を作る工程を楽しく学ぶ醤油作り体験や、料理研究家を招き「日本の食文化～一汁一菜から始まる楽しみ～」をテーマとした講演などを実施し、国民文化祭を機に、多くの人々に湯浅町の文化や歴史に触れ、楽しんでもらいました。